

令和8年度近畿地方資源循環自治体フォーラム 第一部 基調講演 登壇者および講演内容一覧

登壇者(敬称略)	講演タイトル	講演内容概要
環境省環境再生・資源循環局資源循環課長 相澤 寛史	(仮) 循環経済の実現に向けた環境政策の最前線	政府は、循環経済の実現を国家戦略として着実に推し進めるべく、「循環経済（サーキュラーエコノミー）に関する関係閣僚会議」を開催している。令和8年4月の第4回会議において決定した「循環経済行動計画」で定めた以下の5つの施策等について説明する。 1. 再生資源供給サプライチェーンの強靱化（重要鉱物、金属資源等） 2. 日本をハブとする国際資源循環ネットワークの構築 3. 地域循環資源の徹底活用による地域活性化 4. 資源循環分野の国際ルール形成 5. 循環経済を国民運動に
近畿大学経済学部准教授 石村 雄一	資源循環を経済学の視点から考えると、どんな課題と対策が見えるのか？	資源循環はいまや廃棄物やリサイクルの分野だけの課題ではない。資源価格の高騰や国際情勢の変化を背景に、資源の安定確保や経済安全保障の観点からも重要性が高まっている。しかし資源循環の達成は容易ではない。そこで本講演では、資源循環が抱える課題を経済学の視点から分かりやすく解説する。さらに、再生プラスチック商品に対する消費者の評価について、経済学と統計学を用いた研究成果を紹介する。これらを踏まえて、行政、事業者、市民それぞれの立場から、今後の資源循環のあり方について議論する。
日榮新化株式会社 准執行役員資源循環事業部長 資源循環プロジェクト代表 本池 高大	ラベル台紙の水平リサイクル事業「資源循環プロジェクト」	様々な業種・用途で大量廃棄されてきたラベル台紙を従来の「剥離紙」から、マテリアルリサイクルを前提に設計された「リサイクル専用台紙」に置き換えることで、ユーザー使用後に有価物として回収。最終分別・マテリアルリサイクルを経て、再び「リサイクル専用台紙」の原料に使用します。 J4CE参加企業として、これまでJ4CEイベントに参加した経験や異業種連携により実現したサーキュラーエコノミーの具体事例を紹介します。